

Makita**取扱説明書****エンジンカッタ****EK732****EK733****⚠ 注意**

ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。又、内容をよく理解したうえでご使用ください。不適切な操作や保守は、重大な事故につながるおそれがあります。なお、本書はいつでも利用できるように、大切に保管してください。

目次	頁
1. 安全にご使用いただくために	1
1-1 ご使用前に	2
1-2 キックバック	5
1-3 給油	5
1-4 始動	6
1-5 作業	7
1-6 停止	8
1-7 点検・整備	8
1-8 移動・保管	9
2. 仕様	10
3. 各部名称	11
4. 組立の手順	13
4-1 外観と付属部品のチェック	13
4-2 刃物の取り付け	13
5. エンジンの始動と停止	13
5-1 燃料の給油	13
5-2 エンジンの始動	15
5-3 始動困難なとき	17
5-4 停止	18
6. 切断作業	18
6-1 ホイルカバーの角度調整	18
6-2 切断作業	19
6-3 効率のよい使い方	19
7. 点検・整備	20
7-1 エアクリナーの清掃	20
7-2 キャブレターの調整	22
7-3 スパークプラグの点検	24
7-4 シリンダーフィンの清掃	25
7-5 ベルトの点検	25
7-6 ベルトの張りの調整	25
7-7 ベルトの交換	26
7-8 といしの点検	26
7-9 ダイヤモンドホイールの点検	27
7-10 刃物の交換	28
7-11 ダイヤモンドホイールの目立て	28
7-12 燃料フィルターの点検	29
7-13 クラッチ部ベアリングへのグリス注入	29
8. 長期保管	30
9. 修理を依頼する前に	31
10. 別販売品のご紹介	32

エンジンカッタをご購入いただきまことにありがとうございます。この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し、安全に使用してください。この取扱説明書でわからない事がありましたらお求めの販売店かお近くの弊社営業所におたずねください。

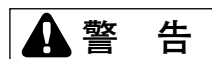
本機は、高速回転する刃物（ダイヤモンドホイール、といし）でコンクリート、鋳鉄管、鋼材などを切断する機械です。事故や災害を予防するために安全予防を常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因となります。

シグナル用語の説明

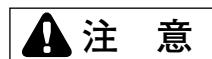
この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。



取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。



取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

〈注記〉本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項

1. 安全にご使用いただくために

安全標識の説明



この取扱説明書をよくお読みください。また内容をよく理解したうえでご使用ください。



本機を運転中は常に耳栓、防じんマスク、保護めがね、保護帽を着用してください。



キックバック注意。刃物の上半分で切断しないでください。



飛散物に注意してください。

1-1. ご使用前に

危険

- 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）に本機を使用させないでください。
- 作業する場合、本機を使用する周辺に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰かが近づいてきた場合は、エンジンを停止させてください。
- 回転している刃物に触れないでください。
- 本機の使用は換気が良好な場所で行ってください。閉鎖された場所（室内、倉庫、トンネルなど）では、本機を運転しないでください。エンジンの排気により、ガス中毒をおこしたり、酸欠状態になり、死亡するおそれがあります。

警告

- 排気の方角には人がいない事を確認して運転してください。
- 排気ガスを吸わないでください。
- 本機の改造は行わないでください。またガード類やマフラーを取り外して運転しないでください。

- 本機は、一人用の機械です。一人で取り扱ってください。

- 疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。また作業中に体調が悪くなった場合にはすぐエンジンを止め、作業を中止してください。



- 裾のひらひらした服、ネクタイ、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。また裸足で作業をしないでください。頭髮は肩から下に垂れないように覆ってください。

- 靴は底に滑り止めのついた安全靴を使用してください。

- 雨の日は、滑りやすいので作業をさけてください。

- 弊社が推奨している刃物以外は使用しないでください。

- 安全な作業場所及び安定した足場を確保して作業してください。

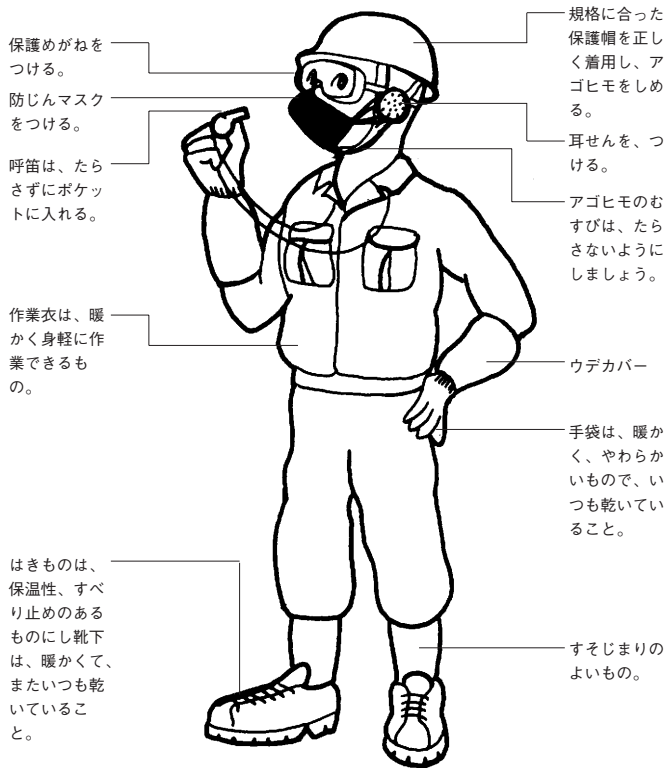
- 作業前に作業場所をきれいにしてください。石、金属片、ガラスは飛散して危険です。

- 飛散物やほこりから目を守るため、付属の保護めがね、または同等品を着用してください。

- 耳栓をつけてください。聴覚障害をおこすおそれがあります。

- 規格にあった保護帽（ヘルメット）を正しく着用してください。落下物によりけがをするおそれがあります。

- 本機の操作時間は1日2時間以内にとどめ、10分以上の連続運転はしないでください。
振動障害をおこすおそれがあります。



- 寒冷の時には、長時間の作業はしないでください。
- 厚手で滑り止めの付いた防振性のある手袋を着用して手を保護してください。
- 規格にあった防じんマスクをつけてください。呼吸器障害をおこすおそれがあります。
- ガソリンを使用しますので、本機のそばで喫煙やたき火はしないでください。
- 作業前に燃料漏れがないか確認してください。
- マフラーや、マフラーから出る排気ガスは非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。

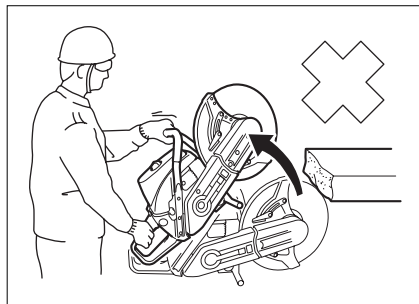
注 意

- 作業前にネジの緩み、脱落と刃物の消耗を点検し、異常のないことを確認してください。
- ベルトの張りの調整が適切に行われ、適正な張りぐあいを保っており、プーリーカバー、クラッチカバーがしっかり締め付けてあることを確認してください。
- 作業に当たってはその作業地域の規則、取り決めにしたがってください。

1-2. キックバック

危 険

刃物の上側半分で切断作業を行うと、切断材と刃物の切断抵抗が急激に大きくなった時に、刃物先端が回転の反動ではねあがり、たいへん危険です。この反動をキックバックと言います。この場合、運転者は本機をコントロールできなくなり、重大な事故につながる場合があります。刃物の上側を使って切断をしないようにしてください。



1-3. 給油

警 告

- 無鉛ガソリンと2サイクル専用オイルの混合、及び給油は屋外の火気のない場所でおこなってください。給油はエンジンを停止し、燃料が吹き出す事があるので、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップを外して行ってください。
- こぼれた燃料は本機から拭き取ってください。引火するおそれがあります。

- 燃料の持ち運びや保管など、取扱いには十分注意してください。

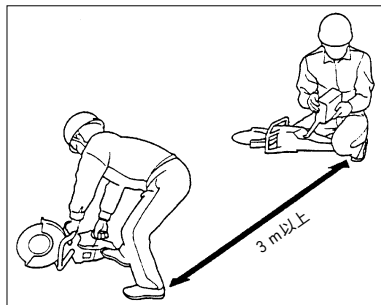
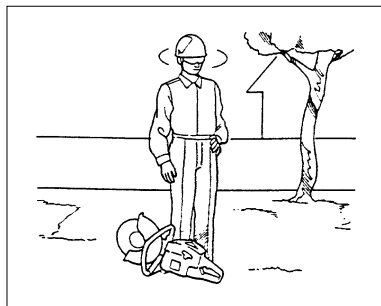
1-4. 始動

危険

- エンジンを始動する場合、刃物が地面や他の物に接していないことを確認してください。エンジンを始動するとすぐに刃物が回ります。

警告

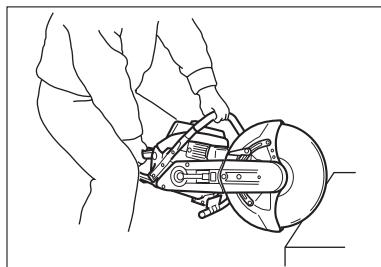
- エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定のよい場所で行ってください。始動時は周囲の安全を確認し、一人（補助者なし）で行ってください。
- エンジンがアイドリング時、刃物が回転していないことを確認してください。アイドリング時、刃物が回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転数を下げてください。
- エンジンの始動は、給油場所から3 m以上はなれた場所で行ってください。



1-5 作業

警告

- 本機は胸より下の位置で使用してください。本機が肩より高くなるような姿勢での作業はたいへん危険です。縦切りは水平から斜め下側、横切りはリコイルスターターが上になる状態で行ってください。



- 本機を操作するときは必ず両手で、フロントハンドルおよびリヤハンドルをしっかりと握ってください。その他の部分は持たないでください。特にホイールカバーの内側に手を差し込むことのないように注意してください。
- 曲線切り、コジリ、刃物側面の使用は絶対に行わないでください。
- しっかりした足場の上で安定した姿勢で作業を行ってください。
- 数人で作業するときは、他の人に危険のおよばないように10m以上間隔をあけて作業してください。
- 本機を使用している人に近づくときはお互いに合図を行い、エンジンが停止してから近づいてください。
- 作業中に本機を落としたり、壁にぶついたり、何か異物に当たったりしたときは、エンジンを停止し損傷の有無を調べてください。もし損傷があれば使用せず、速やかに修理してください。
- 燃料キャップは、緩んでいないか常に注意してください。また燃料漏れを起こさないよう常に増し締めをしてください。
- 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止してください。
- 使用中に火花を発生することがあります、引火や爆発のおそれのある場所では使用しないでください。切断後まわりに火種がないか確認してください。

- 電線を切断しないでください。感電するおそれがあります。

注 意

- 運転中または運転直後に高温部（マフラー、シリンダーなど）や排気ガスに触れないでください。ヤケドをします。
- 切断直後の刃物に直接さわらないでください。ヤケドをします。
- 運転中は、高電圧部（プラグキャップ、プラグコードなど）に触れないでください。感電するおそれがあります。

1-6 停止

警 告

- エンジン停止後、あるいはスロットルを離した後も、刃物はしばらく回転し危険です。スイッチを切った時には、刃物が停止するまで両手でハンドルをしっかり握っててください。刃物の停止を確認した後に本機を地面に置いてください。

1-7 点検・整備

危 険

- 点検・整備（刃物交換、ベルト交換、清掃等）を行うときは必ずエンジンを停止し、刃物が停止していることを確認してから行ってください。

警 告

- ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しの良い火気のない所で行ってください。
- 部品交換を行うときは、必ず弊社純正部品を使用してください。他社の部品を使用すると重大な事故になる可能性があります。

- 取扱説明書に記述していない点検・整備については弊社営業所に依頼してください。

注 意

- 点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

1-8 移動・保管

警 告

- 移動時や保管時にはエンジンを停止してください。刃物が回転してけがをするおそれがあります。

注 意

- 保管の際は、燃料漏れ、破損、事故等を防止するために本機を、転倒しないような安定した場所に、刃物をはずして置いてください。
- 年少者（子供）の手が届かない乾燥した場所に保管してください。
- 移動時はフロントハンドルを持ち、刃物を後ろ向きにしてください。
- 2～3日以上保管する場合は燃料タンクを空にしてください。

2. 仕様

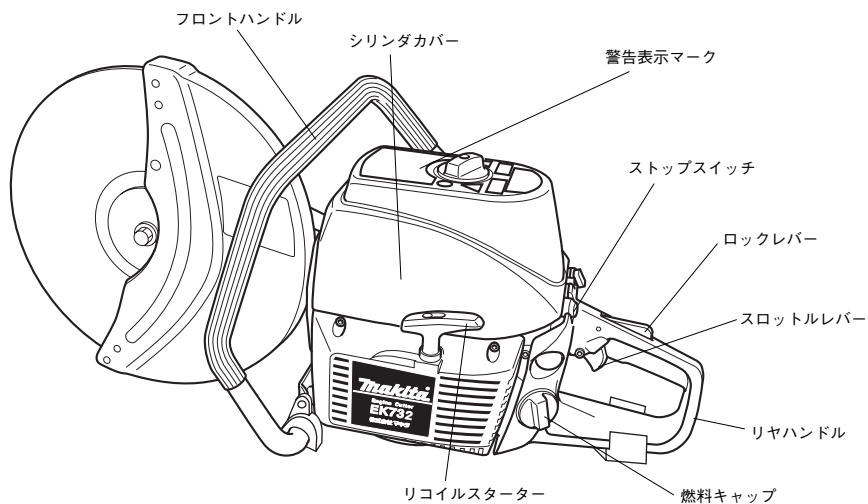
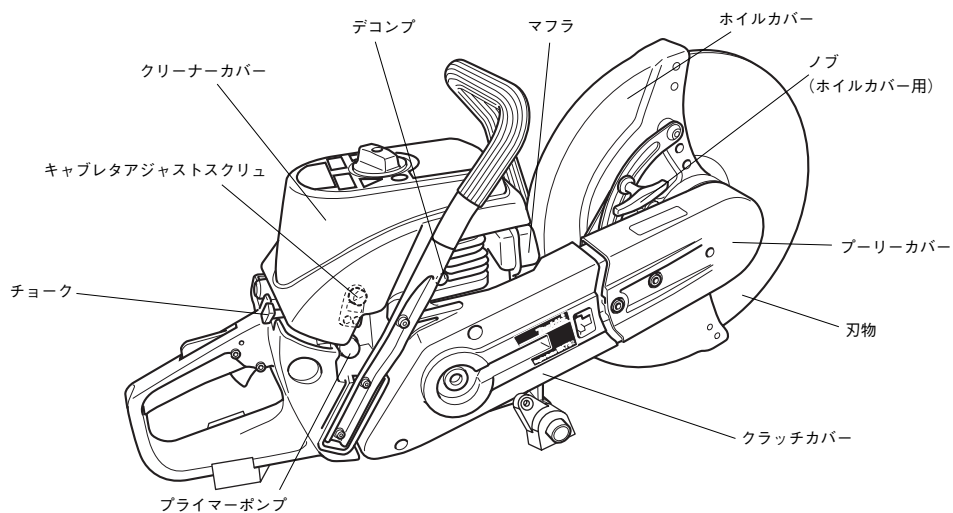
モデル	EK732	EK733
エンジン形式	2サイクル空冷ガソリンエンジン	
排気量 mL	73.5	
内径×工程 mmxmm	51×36	
アイドル回転数 min ⁻¹	2500	
最高回転数 min ⁻¹	10550	
点火方式	電子点火方式 (CDI, 自動進角式)	
スパークプラグ	チャンピオン、CJ6Y	
気化器	ダイヤフラム式	
燃料タンク容量 L	0.80	
燃料	混合燃料 (無鉛ガソリン: 2サイクル専用オイル=25:1)	
最大切り込み深さ mm	102	127
最高周速度m/s (m/min)	67 (4000)	68 (4100)
減速比 (プーリー比)	2.5	2.87
始動方法	リコイルスターター (アシスト方式防塵型)	
停止方法	アース式(プッシュスイッチ)	
動力伝達方式	自動遠心クラッチ、Vリブドベルト	
防振構造	ハンドル一体防振 (7点支持)	
安全装置	スロットルロック	
乾燥質量(刃物を除く) kg	10.2	10.7
外形寸法 mm (長さ×幅×高さ)	740×240×380	765×240×395

使用刃物

切断砥石	非金属用砥石……………	別販売品
	金属用砥石……………	別販売品
ダイヤモンドホイール	コンクリート用……………	別販売品
	鋳鉄管用……………	別販売品
	外径	305mm
		355mm

*仕様は予告なく変更することがあります。

3. 各部名称



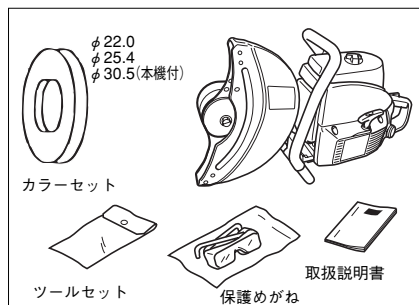
- | | |
|--------------------------|---|
| 1. シリンダカバー | マフラ、シリンダ、キャブレタをカバーします。 |
| 2. マフラー | 排気音を減少させます。 |
| 3. フロントハンドル | 本機の前方にある左手用ハンドルです。 |
| 4. リヤハンドル | 本機の後方にある右手用ハンドルです。 |
| 5. スロットルレバー | エンジンのスピードをコントロールします。 |
| 6. ロックレバー | スロットルレバーを作動させる前に押し下げます。 |
| 7. プライマーポンプ | タンクからキャブレタに燃料を送るポンプです。 |
| 8. キャブレターの
アジャストスクリュー | アイドルリング回転数を調整します。 |
| 9. チョーク | 冷えているエンジンの始動時に燃料と空気の混合割合を調整し、スロットルをある程度引いて固定させ、始動性を良くします。 |
| 10. ストップスイッチ | スイッチを押すとエンジンが停止します。 |
| 11. 燃料キャップ | 燃料タンクのふたです。 |
| 12. 刃物 | コンクリート、鋳鉄管、鋼材、などを切断します。 |
| 13. ホイルカバー | 刃物のカバーです。 |
| 14. ノブ | ホイルカバー固定用。 |
| 15. クリーナーカバー | エアクリーナーをカバーしているふた。 |
| 16. プーリーカバー | ベルト及びプーリーをカバーします。 |
| 17. クラッチカバー | クラッチドラム、ベルトをカバーします。 |
| 18. リコイルスターター | グリップを引っ張ってエンジンを始動します。 |
| 19. 警告表示マーク | 警告指示事項を示します。 |
| 20. デコンプ | 始動時にエンジンの圧縮を抜いて、リコイルの引き力を軽減します。 |

4. 組立の手順

4-1 外観と付属品のチェック

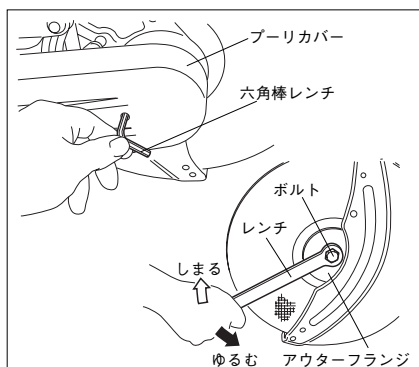
本機は工場出荷の際、厳重な検査を行っておりますが、念のために本製品の損傷やネジのゆるみなどがないか点検してください。

また、付属品の欠品がないか点検してください。もし、点検の結果、異常や欠品があった場合はただちにお求めの販売店もしくは、弊社営業所へご連絡ください。



4-2 刃物の取り付け

- ① 付属の六角棒レンチをプリーカバーの穴に入れてドライブシャフトを固定して下さい。
- ② 刃物はドライブシャフトのカラーにセットするようになっています。刃物の中心穴にカラーが確実にセットされていることを確認し、アウターフランジを取り付け、ボルトを締め付けてください。



5. エンジンの始動と停止

5-1 燃料の給油



火気を近づけないでください。火災の原因となります。

1. 燃料



新品時は、混合燃料の混合比を20：1で約20時間使用してください。また、燃料は必ず混合燃料を使用してください。

新品時20時間使用後燃料は必ず、無鉛ガソリン25に対して2サイクル専用オイル1の割合で混合した混合燃料を使用してください。

燃料の混合は容器にオイルを先に入れ、後からガソリンを加えてください。

2サイクル専用オイル

例)	ガソリン	混合比25：1
	(L)	(mL)
	1	40
	5	200
	10	400

2. 給油



給油する前に燃料キャップとその周りを良く清掃してください。異物やゴミをタンク内に入れないでください。燃料は、ゆっくりと給油してください。急いで入れると吹きこぼれるおそれがあります。

燃料は常に新しいものを使用してください。2～3カ月以上保存したり、異物が混入した燃料を使用すると、故障の原因となります。

- ① 給油する前に燃料をよく混合してください。
- ② 燃料キャップをゆっくり外し、燃料を給油してください。温度が高いと、燃料が吹きこぼれることがあります。

- ③ 給油後は確実にキャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

5-2 エンジンの始動

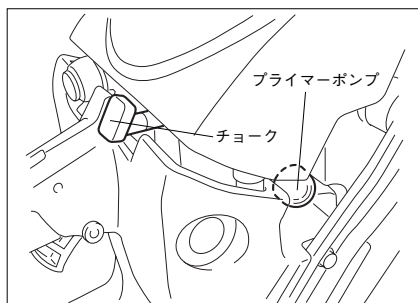
⚠ 危険

エンジンを始動する場合、刃物が地面や他の物体に接触していないことを確認してください。始動後すぐに刃物が回り危険です。

⚠ 注意

リコイルスターターはアシストスプリング方式を採用しておりますので、軽く引いてもスプリングの作用で簡単に始動することが出来ます。デコンプを使用しない状態で、リコイルロープを極端に速く引き過ぎますとアシストスプリングの破損に繋がりますので、この状態での「落としがけ」は行わないで下さい。始動時にリコイルスターターを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。リコイルスターターを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。

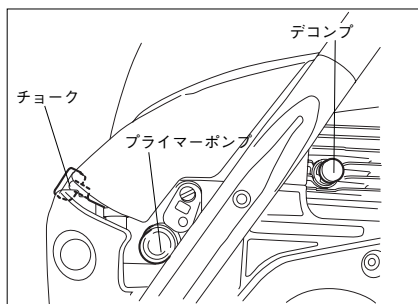
- ① アジャストスクリューの下側に付いているプライマーポンプ（透明半球形）を押し、ポンプ内に燃料が入り、泡が少なくなるまで押ししてください。（始動時）



- ② チョークを引いてください。チョークを引くと、始動ロックがかかります。（エンジンが冷えているとき）

〈注記〉

エンジンが暖まっているときは、チョークを一度引いてから戻してください。スロットルロックがかかります。

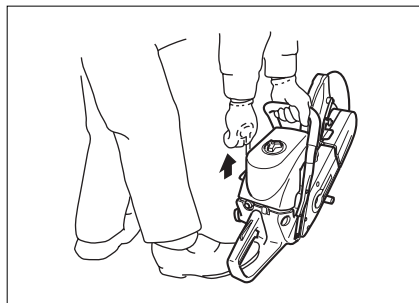


- ③ デコンプを押す。

⚠ 危険

作業者以外の人を作業場所から遠ざけてください。

- ④ 本機を地面におき、右足でリヤハンドルをしっかりと固定します。
- ⑤ 左手でフロントハンドルをつかみ、右手でリコイルスターターをゆっくり引きます。重く感じた所から勢いよく引いてください。



- ⑥ リコイルスターターを数回引き、爆発音がしたらチョークをもとの位置に押し込んでください。(エンジンが冷えているとき)
- ⑦ 再びリコイルスターターを引いてください。エンジンが始動したらスロットルレバーを少し引いて、始動ロックをはずしてエンジンをアイドリング状態にしてください。

⚠ 警告

アイドリング時刃物が回転してはいけません。アイドリング時刃物が回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転数を下げてください。(7-2項参照)

- ⑧ アイドリング運転を2～3分間行ってください。
- ⑨ スロットルレバーを徐々に引いてエンジンの回転を上げていくと、自動的に刃物が回転し始めます。スロットルレバーを戻すと、刃物の回転が停止し、エンジンはアイドリング状態になります。

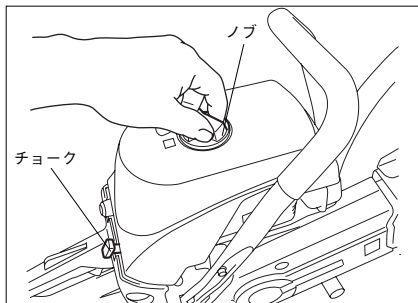
5-3 始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作をおこなってください。

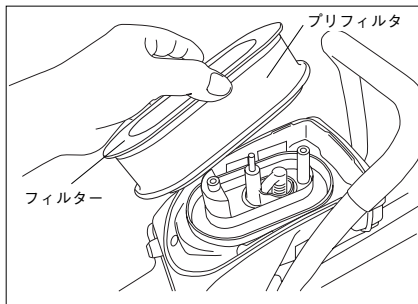
警告

火気を近づけないでください。火災の原因となります。

① チョークをいっぱいに入れてください。

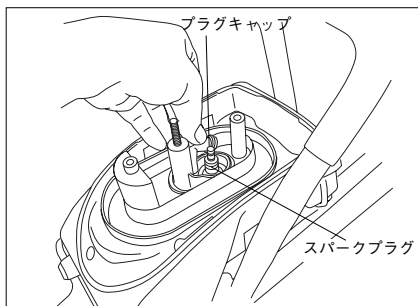


② クリーナーカバー上のノブをゆるめ、クリーナーカバーを取り外し、フィルターのスクリュ2本をゆるめ、フィルターを取り外してください。



③ プラグキャップを取り外してください。

④ スパークプラグを付属のプラグレンチでゆるめて取り外し、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。



⑤ スパークプラグが濡れている場合は、スパークプラグを乾燥させてください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを引き、数回空転させて燃料をシリンダー内から排出してください。

⑥ スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、プラグキャップを取り付けてください。取り外した部品を元通りに取り付けてください。

- ⑦ 5-2 エンジンの始動の項に従って、チョークを一度引いて戻してから始動してください。
- ⑧ スパークプラグが濡れていない場合は、燃料タンクから燃料が届いていないので燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。
7-2、7-12の項の点検をするか弊社営業所にお問い合わせください。

5-4 停止

エンジンを停止させるときは、スロットルレバーを戻し2～3分間アイドリング運転をしてからストップスイッチをエンジンが停止するまで押し続けてください。

6. 切断作業

危険

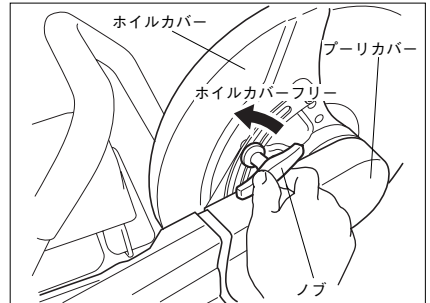
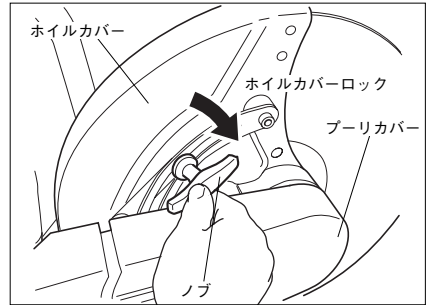
- 作業する場合、本機を使用する周辺に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰か近づいてきた場合は、エンジンを停止させてください。
- 刃物の上側半分を使って切断しないようにしてください。キックバックが起きることがあります。(1-2項、キックバック参照)
- 本機を使用するときは、保護目がね、保護帽、耳栓、手袋及び安全靴を着用してください。

6-1 ホイルカバーの角度調整

危険

といしを使用するときは、必ずホイルカバーを固定してください。固定していないと、といしが破損したときにホイルカバーが動いて破片が飛びけがをすることがあります。

- といしを使用する場合
 ホイルカバーは、作業者に破片が飛んでこない位置に動かし、ノブを時計回りに締めこみ、ホイルカバーを固定してください。
- ダイヤモンドホイールを使用する場合
 通常はといしと同じように固定して使用しますが、ホイルカバーを固定しないで使用することもできます。その場合、ノブを反時計回りにいっぱいに戻し、固定してください。
 ホイルカバーはスプリングで常に同じ位置に戻るよう設計されています。
 (各部名称参照)



6-2 切断作業

安全に作業ができるよう周囲をきれいにしておいてください。

刃物をまっすぐに当てて、低速回転で切り溝をつくってから高速にして切断してください。

6-3 効率のよい使い方

スロットル全開で回転数は8500~9500min⁻¹{rpm}の範囲になるように、刃物を軽く切断材に押し当てて切断するのが最も効率のよい使い方です。

刃物を切断材に強く押し当てて、エンジン回転数を下げて使用するのは使用者の疲労を増し、切断性能が著しく低下します。

7. 点検・整備



警告

ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しの良い火気のない所で行ってください。

点検・整備表

項目	始動前	毎週	毎月	必要な場合	備考
エアクリーナー	○				破れは交換
キャブレタ				○	
クラッチドラム		○			
スパークプラグ			○		
シリンダーフィン			○		
燃料フィルター			○		
といし(ダイヤモンドホイール)	○				
ベルト		○			
ネジ類	○				
燃料キャップ	○				
燃料タンク	○				
ホイールカバー	○				

7-1 エアクリーナーの清掃

本機のエアクリーナーシステムは、乾式プリフィルター（標準付属品）と湿式プリフィルター（別販売品）を用意していますので、使用状況にあわせてお選びください。

乾式プリフィルター…プリフィルター・フィルター共に清掃が必要ですが、繰り返し使用できます。

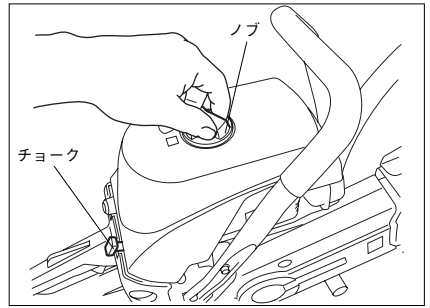
湿式プリフィルター…プリフィルターの交換だけで清掃が完了しますが、プリフィルターの再使用はできません。

エアクリーナーの汚れは本機の寿命に大きく影響します。作業を始める前には必ず点検・清掃をしてください。

1. 点検・清掃前準備

- ① キャブレタ内にゴミが侵入しないように、チョークを引いてください。
- ② クリーナーカバー上のノブを緩め、クリーナーカバーを取り外してください。
- ③ フィルター取り付け用スクリュー（2本）を緩め、フィルターを取り外してください。

※空気取入れ部に粉塵が落ちないように注意してください。

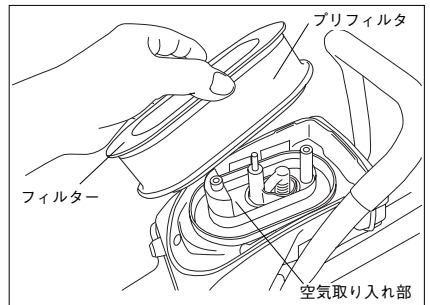


2. 点検：フィルター内部や、空気取り入れ部が汚れていないか確認してください。もし汚れていたらフィルターを交換してください。

3. 乾式プリフィルター（標準付属品）装着時の清掃

作業前には必ず清掃をしてください。

- ・点検・清掃：1日1回
- ・交換：約20時間ごと、またはフィルターの破損等によりフィルター内部にゴミやホコリが付着している場合。



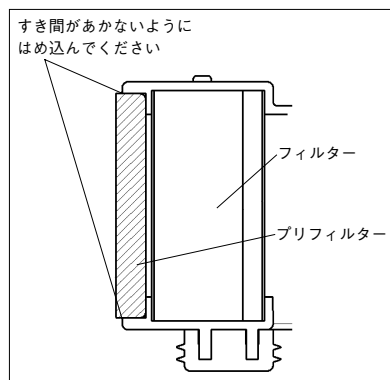
- ① プリフィルターをフィルターから取り外し、どちらもエアガンで内側から外側に向けてエアを吹き付け、ゴミやホコリを吹き飛ばしてください。エアガンがない場合は、はたいてホコリを落としてください。フィルターは傷つきやすいためコンクリートなどの硬いものにたたきつけないでください。
- ② フィルターの内側と、シリンダカバー取り付け面の汚れをきれいに取り除いた後、プリフィルターをはめこみフィルターを取り付けてください。
- ③ フィルター取り付け用スクリュー（2本）を確実に締め込み、クリーナーカバーとノブを取り付けてください。

4. 湿式プリフィルター（別販売品）装着時の清掃…専用特殊オイル含浸品（赤色）

- ・点検：1日1回

湿式プリフィルターは粉塵がほとんど透過しないため、内部のフィルターは点検のみで、清掃の必要はありません。プリフィルターを新品に交換すれば再び使用できます。切断作業中にパワーが落ちたと感じたら、プリフィルターの交換をしてください。

- ① 汚れたプリフィルターをフィルターから取り外してください。
(プリフィルターは使い捨てです)
- ② フィルターを点検し汚れている場合は、乾式フィルターの清掃手順にそって清掃してください。
- ③ 新品のプリフィルターをフィルターの溝に、すき間がないようにはめ込んでください。



すき間があると内側のフィルターにゴミやホコリが侵入し、内側のフィルターまで清掃が必要となります。

- ④ フィルターの内側と、シリンダカバー取り付け面の汚れをきれいに取り除いた後、フィルターを取り付けてください。
- ⑤ フィルター取り付け用スクリュ（2本）を確実に締め込み、クリーナーカバーとノブを取り付けてください。

7-2 キャブレターの調整

キャブレターは工場出荷時に調整していますので、調整の必要はありません。気圧、気温、燃料の違い、10時間以上の使用による状態変化などにより、調整が必要になったときにのみ行ってください。調整が難しい場合には弊社営業所にお問い合わせください。キャブレターを調整する場合は、エンジンを始動し、2～3分間の暖気運転の後、次の手順で調整してください。また、エアクリーナーが汚れている場合は清掃してから行ってください。

⚠ 危険

刃物の周辺に人または干渉物がないことを確認して行ってください。

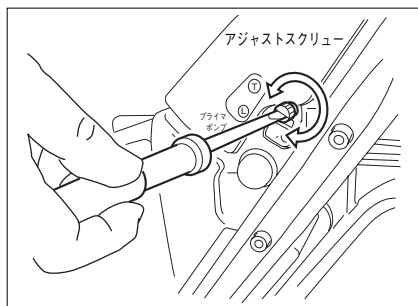
アジャストスクリュの調整時、低速調整時には刃物が回転します。

1. アイドリングの回転調整

アイドリング時に刃物が回らないように調整します。

またエンジンが $2300\sim 2700\text{min}^{-1}$ (rpm)で安定して回転するようにアジャストスクリューを調整してください。

時計方向に回すと回転が上がります。



2. 低速（L）ニードルの調整範囲

⚠ 注意

- 無負荷全開運転をするとエンジン回転が高くなりすぎ、焼き付くおそれがありますので、空吹かしはしないでください。
- ニードル調整時、力いっぱい回さないでください。キャブレターボディをいため、調整できなくなります。

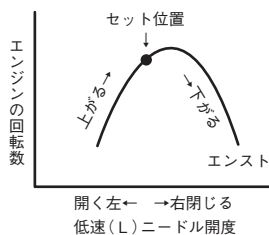
標準開度

Lニードル： $1\frac{1}{2}$ 回転

標準開度はニードルを静かに、時計方向にいっぱい回し、全閉したところからの戻し数値です。

3. 低速（L）ニードルの調整

- ① アイドリングの回転速度調整をした後、低速（L）ニードルを反時計方向または時計方向にゆっくり回してみても、エンジンの回転速度が上がる方向に回していきます。更にそのまま回し続けるとエンジン回転速度が低下していきます。



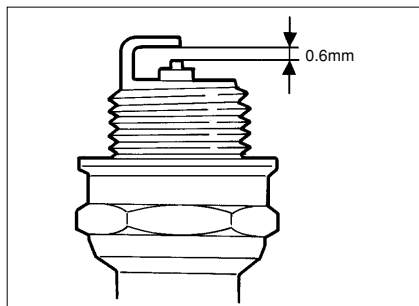
- ② その低下する寸前のところから約 $1/2$ 回転反時計方向にもどしてセットしてください。

- ③ スロットルレバーを急に握ってエンジンが止まったり、回転が落ち込んだりしないで加速することを確認して下さい。
- ④ 加速性が悪い場合は、低速（L）ニードルを反時計方向に少しずつ回して、アイドル回転速度を、アジャストスクリューで $2300\sim 2700\text{min}^{-1}\{\text{rpm}\}$ にセットし、加速性の確認をして下さい。
- ⑤ これを加速性の良くなる所まで行なって下さい。

7-3 スパークプラグの点検

エンジンの始動性が悪くなったり、アイドル回転が不安定になった場合はまずスパークプラグを点検して下さい。

- ① プラグをはずして下さい。5-3「始動困難なとき」の項を参照して下さい。
- ② ワイヤブラシで汚れを落として下さい。
必要なら電極間すきまを調整して下さい。
適正すきまは 0.6mm （はがき3枚分）です。



〈注記〉

約100時間運転後、または電極の腐食がひどい場合は交換してください。
スパークプラグは純正品（チャンピオン C J 6 Y）をご使用ください。

7-4 シリンダーフィンの清掃

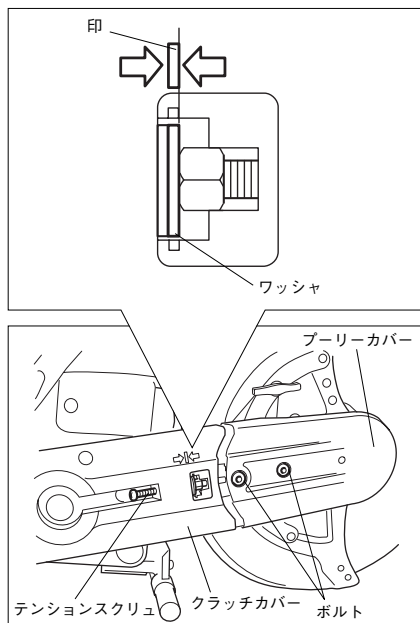
- シリンダーフィンの間を清掃してください。シリンダーフィンの中にゴミが
つまっていると、オーバーヒートや火災の原因となります。
- つまりが多いときはシリンダーカバーをはずして清掃してください。

7-5 ベルトの点検

ベルトは長く使っている間に、張りがゆるんだり、摩耗したりします。プーリー
カバーのボルトを緩めて張りの調整をしてください。クラッチカバーとプーリー
カバーを外してベルトを点検し、摩耗が激しい場合（はがれ、めくれ、傷、ひび
割れなど）は、新品と交換してください。

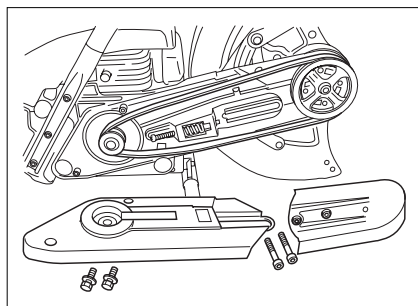
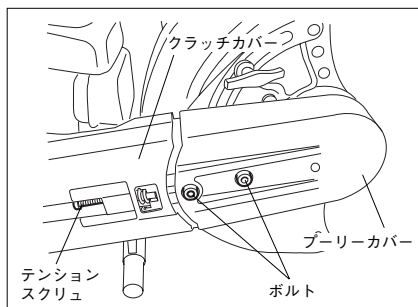
7-6 ベルトの張りの調整

- ① プーリーカバーのボルト2本を約1
回転緩めてください。
- ② テンションスクリュを回して、クラ
ッチカバーの印にワッシャを合わせ
てください。
- ③ プーリーカバーのボルト2本を締め
付けてください。



7-7 ベルトの交換

- ① テンションスクリュを緩めてください。
ボルト2本を外してください。
- ② プーリーカバー、クラッチカバーを取り外し、ベルトを外してください。
- ③ 新しいベルトを組み付けクラッチカバーを取り付けてください。
- ④ プーリーカバーとボルト2本を取り付けベルトの張りを調整してください。(7-6項参照)



7-8 といしの点検

切断性能はといしの状態によって大きく左右されます。常に適正な状態を保つようにしてください。

外観を良く点検し、ひび、ひずみ、かけのある物は、使用しないで新品に交換してください。また異常摩耗したといしも新品に交換してください。



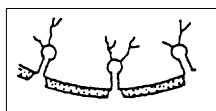
ひび、ひずみ、かけのあるといしを使用すると、といしが破損しますので使用しないでください。

7-9 ダイヤモンドホイール（別販売品）の点検

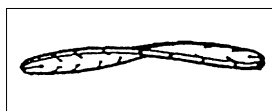
切断性能は刃物の状態によって大きく左右されます。切れ味が低下した時は、目立てを行ってください。切れ味の悪い状態での作業は疲労を増し、切断効率を著しく低下させます。常に適正な状態を保つようにしてください。

⚠ 危険

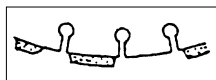
基盤割れ、チップかけ、基盤のひずみ、チップ異常摩耗等のあるダイヤモンドホイールを使用するとダイヤモンドホイールが破損する事がありますので使用しないでください。



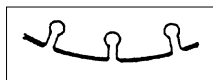
（基盤割れ）



（基盤のひずみ）



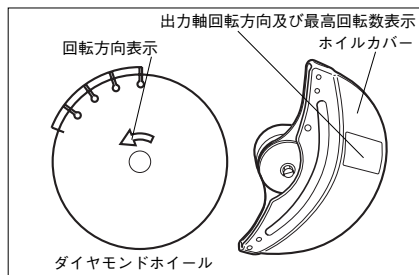
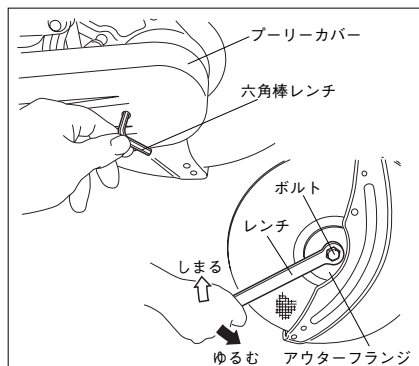
（チップかけ）



（チップ摩耗）

7-10 刃物の交換

- ① プーリーカバーの穴に六角棒レンチを入れて、ボルトをレンチで回してください。
- ② ボルト、アウターフランジ、刃物の順に外してください。
- ③ 新しい刃物を取り付けてください。刃物はドライブシャフトのカラーにセットするようになっています。刃物の穴にカラーが確実にセットされていることを確認し、アウターフランジを取り付けボルトを締め付けてください。



⚠ 危険

刃物は、表示されている最高使用回転数が、本機に表示してある最高回転数（MAX min⁻¹{rpm}）より高いものを使用してください。

⚠ 注意

- ダイヤモンドホイールは回転方向に注意してください。（ダイヤモンドホイールの表示が上図の通りになるようにしてください。）
- フランジのあたり面にゴミが付いていたら、きれいに取り除いてください。
- 刃物は、弊社純正品を使用してください。

7-11 ダイヤモンドホイールの目立て

刃物をスロー回転（クラッチイン回転数、エンジン回転数約3800min⁻¹{rpm}位）

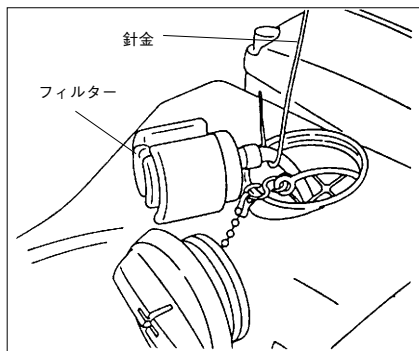
に落とし、コンクリートブロックまたは柔らかいレンガを10回程度切断し、ダイヤの目が出たのを確認してください。尚、ブロックは水をかけて切断する方が効果が上がります。

7-12 燃料フィルターの点検



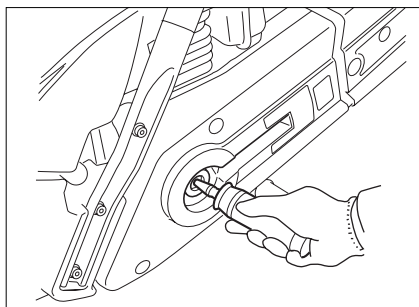
ガソリンはたいへん引火しやすいので、火気に注意してください。

- ① 燃料キャップを外してください。
- ② 給油口から針金などで先端のフィルターを引き出して、フィルターが汚れていたらフィルターを交換してください。
- ③ 交換後、ゴムパイプが折れないようにして燃料フィルターを給油口から、燃料タンク内に戻してください。このとき、燃料フィルターが燃料タンクの底に着いていることを確認してください。
- ④ 燃料キャップを取り付けてください。



7-13 クラッチ部ベアリングへのグリス注入

クラッチドラムとクランクシャフトの間のベアリングへ20時間毎にグリスをクランクシャフトの端面の穴から適量（図のグリスガンで3回押す程度）注入してください。



8. 長期保管

危険

- 保管の際は、燃料漏れ、破損、事故等を防止するために本機が転倒しないような安定した場所に置き、刃物を取り外して下さい。
- 年少者（子供）の手の届かない乾燥した場所に保管して下さい。

2ヶ月以上使用しないときは、次の整備を行って保管してください。

- ① 外観を十分に清掃してください。
- ② 点検・整備の項を参考にして点検・整備を行ってください。
- ③ 燃料タンクの燃料を排出しながら、スロットルアジャストスクリュー下のプライマポンプを押しキャブレター及びポンプ内の燃料を排出してください。
- ④ エンジンを始動し、エンジンが停止するまで低速で運転してキャブレターの中の燃料を空にしてください。

〈注記〉

燃料を2ヶ月以上入れたままにしておくと変質してキャブレターの故障やエンジンが始動しなくなる原因になります。

- ⑤ クリーナーカバー、フィルタ、プラグキャップ、スパークプラグを外し、スパークプラグ穴から少量(1～2cc)のオイルをシリンダー内に流し込み、オイルがゆきわたるように2～3回コイルスターターを引いてください。
- ⑥ クリーナーカバー、フィルタ、プラグキャップ、スパークプラグを元通りに取り付けてください。
- ⑦ 刃物を取り外して下さい。
- ⑧ 屋内の乾燥した火気のない場所に保管してください。

9. 修理を依頼する前に

エンジンが始動しない

燃料タンクに新しい混合ガソリンが入っていますか？

スパークプラグが濡れていますか？

濡れている

- ① スパークプラグを乾かしてください。
- ② スパークプラグの点検を行ってください。(7-3参照)
- ③ リコイルスターターをいきおい良く引いてシリンダー内の燃料を排出してください。(5-3参照)

濡れていない

燃料フィルターの交換

これらの点検・整備を行っても症状が改善されない場合は、弊社営業所にお問い合わせください。

切れ味が悪い

チョークを完全に戻していますか？

エアクリーナーが汚れていませんか？

といしの目は、つぶれていませんか？ダイヤモンドホイールの目立ては十分行われていますか？

ベルトの張り調整は適正ですか？

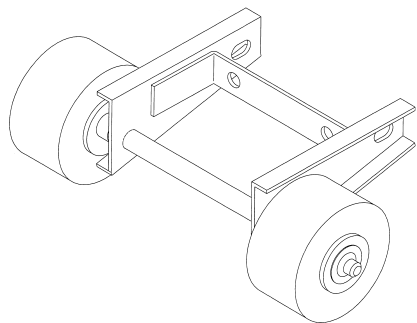
キャブレターの調整は適正ですか？

10. 別販売品のご紹介

・切断砥石・ダイヤモンドホイール

タイプ/用途		サイズ mm 外径×穴径 (厚さ)	適用機種		品番
			EK732	EK733	
切断砥石	コンクリート製品	φ 305×φ 25.4 (4.0)	○		A-04846
	鋳鉄管など	φ 355×φ 25.4 (4.5)		○	A-34942
	金属用	φ 305×φ 25.4 (4.0)	○		A-04880
	鋼材など	φ 355×φ 25.4 (4.5)		○	A-34958
ダイヤモンドホイール	コンクリート用	φ 305×φ 30.5 (2.7)	○		A-04911
	レーザーブレード	φ 305×φ 30.5 (2.8)	○		A-36382
		φ 355×φ 30.5 (3.2)		○	A-36625
	アスファルト用	φ 305×φ 25.4 (3.0)	○		A-03470
	鋳鉄管用	φ 355×φ 25.4 (3.0)		○	A-17734
	金属溶着ダイヤモンドホイール	φ 305×φ 30.5 (3.2)	○		A-36631
		φ 350×φ 30.5 (3.2)		○	A-36647

・キャストセット品 (品番: ND00000176)
路盤作業に便利です。



・プリフィルター湿式用 (品番: ND00000226)

全国に広がるアフターサービス網

お買い上げ商品のご相談は、最寄りのマキタ登録販売店もしくは、下記の当社営業所へお気軽にお尋ねください。

事業所名	電話番号	事業所名	電話番号	事業所名	電話番号
札幌支店	(011) (783) 8141	足立営業所	(03) (3899) 5855	東大阪営業所	(06) (6746) 7531
札幌営業所	(011) (783) 8141	大田営業所	(03) (3763) 7553	関西物流センター	(0725) (46) 6715
旭川営業所	(0166) (29) 0960	江戸川営業所	(03) (3653) 5171	南大阪営業所	(0725) (46) 6611
釧路営業所	(0154) (37) 4849	多摩営業所	(042) (384) 8411	奈良営業所	(0742) (61) 6484
函館営業所	(0138) (49) 9273	立川営業所	(042) (542) 1201	橿原営業所	(0744) (22) 2061
苫小牧営業所	(0144) (68) 2100	横浜支店	(045) (472) 4711	和歌山営業所	(073) (471) 4585
帯広営業所	(0155) (36) 3833	横浜営業所	(045) (472) 4711	田辺営業所	(0739) (25) 1027
北見営業所	(0157) (26) 9011	川崎営業所	(044) (811) 6167	沖縄営業所	(098) (874) 1222
仙台支店	(022) (284) 3201	平塚営業所	(0463) (54) 3914	兵庫支店	(0794) (82) 7411
仙台営業所	(022) (284) 3201	相模原営業所	(042) (757) 2501	三木営業所	(0794) (82) 7411
古川営業所	(0229) (24) 0698	湘南営業所	(0466) (87) 4001	尼崎営業所	(06) (6437) 3660
青森営業所	(017) (764) 4466	静岡支店	(054) (281) 1555	神戸営業所	(078) (672) 6121
八戸営業所	(0178) (43) 3321	静岡営業所	(054) (281) 1555	姫路営業所	(0792) (81) 0204
盛岡営業所	(019) (635) 6221	沼津営業所	(055) (923) 7811	広島支店	(082) (293) 2231
水沢営業所	(0197) (22) 5101	浜松営業所	(053) (464) 3016	広島営業所	(082) (293) 2231
郡山営業所	(024) (932) 0218	甲府営業所	(055) (276) 7212	福山営業所	(084) (923) 0960
いわき営業所	(0246) (23) 6061	金沢支店	(076) (249) 5701	三原営業所	(0848) (64) 4850
新潟支店	(025) (247) 5356	金沢営業所	(076) (249) 5701	岡山営業所	(086) (243) 4723
新潟営業所	(025) (247) 5356	七尾営業所	(0767) (52) 3533	宇部営業所	(0836) (31) 4345
長岡営業所	(0258) (30) 5530	富山営業所	(076) (451) 6260	徳山営業所	(0834) (21) 5583
山形営業所	(023) (643) 5225	高岡営業所	(0766) (21) 3177	鳥取営業所	(0857) (28) 5761
酒田営業所	(0234) (26) 3551	福井営業所	(0776) (35) 1911	松江営業所	(0852) (21) 0538
秋田営業所	(018) (863) 5205	岐阜支店	(058) (274) 1315	高松支店	(087) (841) 2201
宇都宮支店	(028) (634) 5295	岐阜営業所	(058) (274) 1315	高松営業所	(087) (841) 2201
宇都宮営業所	(028) (634) 5295	多治見営業所	(0572) (22) 4921	徳島営業所	(088) (626) 0555
小山営業所	(0285) (25) 5559	松本営業所	(0263) (25) 4696	松山営業所	(089) (951) 7666
水戸営業所	(029) (248) 2033	長野営業所	(026) (225) 1022	宇和島営業所	(0895) (22) 3785
土浦営業所	(029) (821) 6086	上田営業所	(0268) (22) 6362	高知営業所	(088) (884) 7811
関東物流センター	(048) (771) 3451	飯田営業所	(0265) (24) 1636	福岡支店	(092) (411) 9201
埼玉支店	(048) (771) 3462	名古屋支店	(052) (571) 6451	福岡営業所	(092) (411) 9201
さいたま営業所	(048) (777) 4801	名古屋営業所	(052) (571) 6451	北九州営業所	(093) (551) 3481
川越営業所	(049) (222) 2512	一宮営業所	(0586) (75) 5382	飯塚営業所	(0948) (26) 3361
熊谷営業所	(048) (521) 4647	東名古屋営業所	(0561) (73) 0072	久留米営業所	(0942) (43) 2441
越谷営業所	(0489) (76) 6155	知多営業所	(0569) (48) 8470	佐賀営業所	(0952) (30) 6603
前橋営業所	(027) (232) 5575	岡崎営業所	(0564) (22) 2443	長崎営業所	(095) (882) 6112
高崎営業所	(027) (365) 3688	豊橋営業所	(0532) (46) 9117	佐世保営業所	(0956) (33) 4991
両毛営業所	(0276) (46) 7661	四日市営業所	(0593) (51) 0727	熊本支店	(096) (389) 4300
千葉支店	(043) (231) 5521	津営業所	(059) (232) 2446	熊本営業所	(096) (389) 4300
千葉営業所	(043) (231) 5521	伊勢営業所	(0596) (36) 3210	八代営業所	(0965) (43) 1000
市川営業所	(047) (328) 1554	京都支店	(075) (621) 1135	大分営業所	(097) (567) 3320
成田営業所	(0478) (73) 8101	京都営業所	(075) (621) 1135	宮崎営業所	(0985) (26) 1236
木更津営業所	(0438) (23) 2908	福知山営業所	(0773) (23) 7733	鹿児島営業所	(099) (267) 5234
柏営業所	(04) (7175) 0411	大津営業所	(077) (545) 5594	沖縄営業所	大阪支店の欄をご覧ください。
東京支店	(03) (3816) 1141	彦根営業所	(0749) (22) 6184		
東京営業所	(03) (3816) 1141	大阪支店	(06) (6351) 8771		
中野営業所	(03) (3337) 8431	大阪営業所	(06) (6351) 8771		

株式会社マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)

38024-94310©